

Opinion

オピニオン

参議院の政府開発援助(ODA)調査団長として、ブータンを訪問し、そこで誕生日を迎えた。上院議長らがたき火を囲む野外夕食会を開いてくださった。誕生ケーキは、あの山上の満月。音楽はこおろぎの秋の歌とヒマラヤからの川のせせらぎです」と言い、日本語で「きんぐらきんぐら」「もみじ」を祈るような声で歌ってくださったのには感激した。

国民総生産(GNP)より、国民総幸福量(GNH)が大事であるとの基本理念を1970年代より掲げる幸福の国らしい「おもてなし」であった。

ヒマラヤの南麓、標高2600m、人口約70万人の国民の97%が「幸せを感じる」と答えるブータンは、首相が国民総幸福量委員会の委員長を務め、現在、124項目の指標をもとに、2〜3年ごとに国民に対して大規模な調査を行って政策を考え、5カ年計画の策定を行っている。

例えば、教育に関係する項目をあげれば「地域の植物や動物の名前を知っているか」「植林したか」「民話の知識や方言利用について」「地域の祭りへの貢献度」「過去1年どれだけ伝統スポーツをしたか」「子供の躰や家族の助け合い度について」「祈り、瞑想の回数」などを細かく調査し、不足を感じれば、植林したり、学校教育の内容を充実させるなど各役所が実践面で連携している姿に感銘を受けた。

義務教育は10年間で、幼稚園の年長から高校1年生までが共に学ぶ学校を視察したが、公立も私立も仏教の祈りの時間をもち、約30分間の朝礼中、児童生徒らが姿勢正しく、私語をせず、先生や生徒たちのスピーチを聞く姿は美しい学びの園であった。小学4年生の授業参観の場で「日本の国会議員たちに何か質問はありますか」と問うと、「日本人が大切にしている価値は何ですか」と問う子が



参院議員 山谷えり子

・えり子
・リビン
・イリ
・ケイ
・サン
・グ
・新聞編集長、首相担当など歴任。1男2女の母。

感銘を受けたブータンの教育

■ 解答乱麻 ■

た。私が「正直、親切、チャレンジ精神、親孝行です。ブータンの人々と似ていますね。日本に訪ねてみたいと思う人は手を挙げて」と言つと、ほぼ全員が即座にハイッ、と覇気のある挙手をした。

その後、国王陛下にお会いした際、子供たちが尊い価値について語ったことに強い印象を受けたと伝えた。また一昨年11月王妃と共に国賓として訪日された折、福島県相馬市立桜丘小学校で、「私たち一人一人の中には『人格』という名の龍が存在しています。その龍は、年を取り、経験を食べるほど、強く、大きくなっていきます。人は経験を糧にして強くなる。ことができますのです」と東日本大震災で被災した児童を前に語られたことを多くの日本人は忘れていないと話すと、33歳の国王はかみしめるように「あの時、両親、家族、家を失った子供たちを前に、自分に何が語れるだろうと思いましたが。そして、ブータンの国名であり国旗にも配置されている龍の話をしたのです」と語られた。

国民総幸福量の考え方の背景には文化的、宗教的なものがある。グローバリゼーションの名のもとに拝金主義、利己主義が蔓延し、自然や家族や美しい伝統が破壊されていく社会の中では、人々は幸福にはなれない。清らかさを重んじ、小欲知足を知る日本とブータンは、国際社会で真の幸福とは何かを発信していく使命があるのではないだろうか。

高い精神性、真善美を感じる教育をもっと大事にしたい。